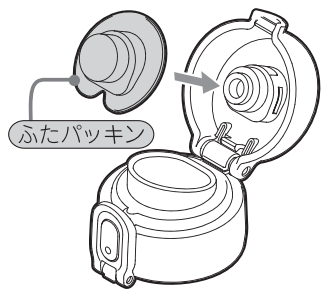


パッキンの取り付け方 正しく取り付けられていないと、もれの原因となります。

お手入れなどで、ふたパッキンやせんパッキンを取りはずした後は、次の内容を読んで正しく取り付けます。

ふたパッキンの取り付け方

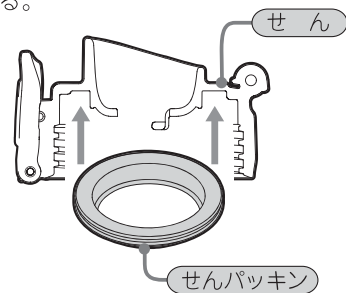
ふたパッキンの凹部をふたの凸部にしっかりと押し込む。



※正しく取り付けないと、飲みものもれの原因となります。

せんパッキンの取り付け方

せんにはめ込み、指でまんべんなく押さえ、浮いていないことを確かめる。

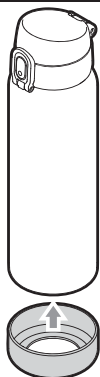


底カバーの取り付け方

底カバーの取り付け方

底カバーをびん底に合わせてしっかりと取りつける。

※取りつける時は十分乾燥させてからおこなってください。サビや底カバーの抜け落ちによるけが、やけど、破損などの原因になります。



赤サビ状の斑点や水アカなどのお手入れ

使用中、水質や不純物などにより本体内部に「赤サビ状の斑点」が出たり「水アカ」が付着することがあります。このような場合は、以下の手順でお手入れしてください。

- ① 定水量の熱湯にクエン酸を約10g 加える。
 - ② 約3時間後に柄のついたスポンジブラシなどで内面を洗い、水で十分にすすぐ。
 - ③ 十分に乾燥させる。
- ご使用前、およびお茶や糖分を含んだものなど、湯(水)以外のものを入れてご使用になった場合には、十分にお手入れをしてください。においを防ぎ清潔にご使用いただけます。
 - 他のものと一緒にお手入れをするときは、製品が傷つかないようにご注意ください。

修理を依頼される前に

次の項目について点検をおこなってください。いずれの場合もあてはまらない場合は、お客様相談窓口へご相談ください。

症状	点検するところ	処置
■ふた・せんからもれる	ふたパッキン・せんパッキンが正しく、しっかりと取り付けられていますか。	パッキンの取り付け位置や方向、浮きがないことを確認してください。
	安全ロックやせんがしっかりとしまっていますか。	しっかりとしめなおしてください。
	ふたパッキン・せんパッキンが汚れていませんか。	「お手入れ方法」を参考にし、お手入れをしてください。
■飲みもの(本体内側・せん)がにおう	飲みものを入れすぎではありませんか。	少量の飲みものを減らしてください。
	飲みものを長時間入れたままにしたり、本体内側、せんユニットやパッキンに茶しぶなどの汚れが付着していませんか。	「お手入れ方法」を参考にし、お手入れをしてください。汚れが落ちにくい場合はクエン酸をご利用ください。
■保温(保冷)が効かない	十分に熱い(冷たい)飲みものを入れていませんか。	十分に熱い(冷たい)飲みものを正しい量まで入れてください。

※せんユニット・ふたパッキン・せんパッキンは消耗品です。使用後半年から1年を目安にご確認ください。

アフターサービス部品について

本取扱説明書に記載されている製品の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後5年となっております。その他、製品に関してのお問い合わせにつきましては、お買上げの販売店もしくはピーコック魔法瓶工業(株)のお客様相談窓口にてご相談ください。

消耗部品のご購入について

製品型名・容量・色柄・部品の正しい名称をご確認のうえ、下記方法でお求めください。(製品型名は製品底面に貼ってあるシールに記載されています。)

- ① ホームページ……トップページの交換用部品販売からお求めください。(取扱部品に限られておりますが、ご了承ください。)
- ② 販売店……ピーコック製品を取扱っている販売店でお取り寄せください。
- ③ お客様相談窓口……お電話もしくはFAXにてお申込みください。

部品名	型名
せんユニット	せんユニット(せん、せんパッキン、ふたパッキン)
せんパッキン	せんパッキン
ふたパッキン	ふたパッキン
底カバー	底カバー

※各消耗部品については、各部のなまえの項目をご覧ください。
★本体容量によって部品のサイズが異なります。

ホームページアドレス <https://www.the-peacock.co.jp>

お客様相談窓口 0570-094891

- 受付時間 9:00~12:00 13:00~17:00
月曜日~金曜日(祝日・弊社休業日を除く)
- ナビダイヤルがご利用いただけない場合はこちらへ
06-6453-9489
- FAXでのお問い合わせ FAX番号 06-6453-9589
製品の型名(品番)・お問い合わせ内容と、お客様のお名前・ご住所・電話番号・FAX番号を記入のうえ、FAXでお問い合わせください。



ピーコック魔法瓶工業株式会社

本社 〒553-0002 大阪市福島区鷺洲5丁目12番20号

Peacock

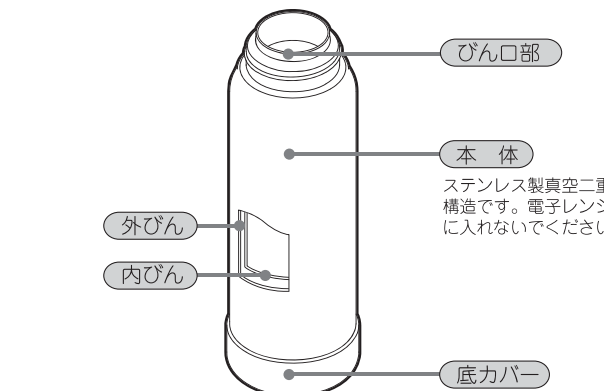
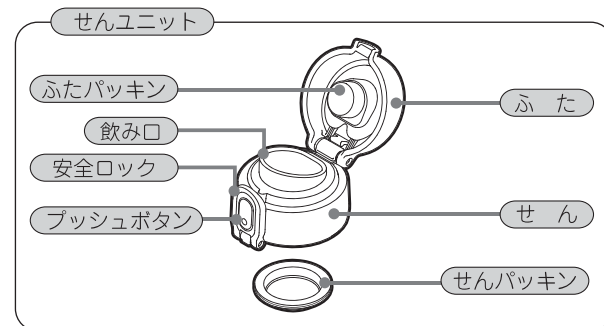
ステンレスボトル
ワンタッチマグタイプ

AKE

取扱説明書

このたびは、ピーコックステンレスボトルワンタッチマグをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。ご使用前にこの説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

各部のなまえ



ステンレス製真空二重構造です。電子レンジに入れしないでください。

説明書中のイラストは、実際のものとは異なる場合があります。

後々のため、この説明書を大切に保管してください。①

安全上のご注意

もれやあふれはやけどや他のものを汚す原因となります。

飲みものの保温・保冷以外に使用しない

乳幼児のいたずらに注意する。



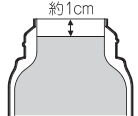
やけど・けがなど危険。

熱い飲みものを入れた場合は、やけどのおそれがあるので注意する。



断熱効果により、熱いものを入れても本体外側は熱くなりません。

飲みものの量は、図の位置までにする。



飲みもの位置
入れすぎると、もれ・あふれ・やけどのおそれ。

ストーブやコンロなど火のそばに近づけない。



変形・変色の原因。

熱いやかんをびん口に触れさせない。



転倒しやけどなどのおそれ。傷・変形の原因。

倒したり、落としたりぶつけたり、強い衝撃を与えない。



破損・保温(保冷)効果の低下・サビ・塗装はがれ・飲みものがもれる原因。

絶対に入れない

●ドライアイス・炭酸飲料など

本体内の圧力が上がり、せんユニットがあかなかつたり、飲みものが吹き出たり、部品が破損して、けがなどのおそれ。

●みそ汁やスープなど、塩分を含んだもの

サビ・保温(保冷)効果の低下の原因。

●牛乳・乳飲料・果汁など

腐敗・変質・サビの原因。そのまま長く放置した場合、腐敗・変質によりガスが発生して、本体内の圧力が上がり、飲みものが吹き出たり、部品が破損してけがなどのおそれ。

●果肉・お茶の葉など もれなど故障の原因。



●飲みものを入れた場合は、使用後、すぐにお手入れをする。

外出時など十分なお手入れができないときでも、すぐに本体内側をよく水ですすぐ。帰宅後に、十分お手入れをする。カビの発生・サビ・穴あきなど故障の原因。

●飲みものを入れた状態で長く放置しない。腐敗・変質の原因。

●本体の底に貼ってある保護シールは、絶対にはがさない。

はがすと保温(保冷)効力が低下するおそれ。

●製品の横置きは避ける。もれるおそれ。

●熱いお茶を長時間保温すると、お茶の色が変わるため、外出時は、ティーバッグなどを使用する。お茶を保温すると、お茶の色や風味が変わります。これはお茶の成分が時間とともに変化するためのもので、人体に害はありません。

●熱い飲みものを入れて長時間放置すると、内部が減圧され、ふたがあげにくくなったり、あけるとき、音がある場合がある。

●熱い飲みものを入れて使用するときには、ゆっくり傾けながら飲みものを飲む。急に傾けると飲みものが勢いよく出て、やけどなどのおそれ。

●熱い飲みものを入れた直後、本体を振らない。内圧が急に上がりふたがあげにくくなったり、あける時、音がある場合があります。

●大きな氷を入れる場合は、押し込まず小さくして入れる。また、アイスビックなど先のとがったものがたつたもので突かない。傷・もれ・変形など故障の原因。

●せんユニットは確実にしめて使用する。安全ロックも確実にしめ、本体を傾けたりして飲みものがもれないことを確認する。もれ・やけどなどのおそれ。

●せんパッキン・ふたパッキンは必ずつけた状態で使用する。もれ・やけどなどのおそれ。車内や衣服を汚す原因。

●せんユニットを持って運ばない。●底カバーを持って逆さにしない。

●バッグなどに入れるときは、本体を縦に置く。万一のもれを防ぐため、必ず縦に置く。

●傾けた状態や顔の近くでふたをあけない。

熱湯を入れた場合、湯が急激に出たり、飛散してやけどのおそれ。

●パソコン・携帯電話・デジタルカメラ等の精密機械と一緒に持ち運ばない。万一飲みものもれがあった場合、精密機械の破損の原因。

●自動車運転中は使用しない。やけどをしたり、車内や衣服を汚す原因。運転者の場合、運転への注意が散漫となり危険。

●自動車専用の缶ホルダーで使用する場合

- ①あらかじめ強度を確認してから使用する。強度が十分でない場合、缶ホルダーがはずれたり破損して、やけどなどのおそれ。車内や衣服を汚す原因。
- ②市販の缶ホルダーは、据え置き型を使用する。ウインドーやエアコン吹出口に取りつける吊り下げ型は、ホルダーがはずれる場合があるので使用しない。

●改造や分解修理はしない。故障や事故の原因。

●冷凍庫に入れない。もれなど故障の原因。

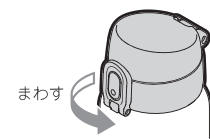
●電子レンジでの加熱はしない。火花が飛び危険。変形や変色の原因。

ご使用方法

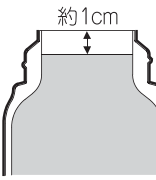
ご使用前にせんユニット・内びんを洗ってからご使用ください。

1 せんユニットをはずす

本体からせんユニットを矢印の方向にまわしてはずす。



2 飲みものを入れる



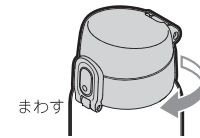
飲みもの位置

※あらかじめ少量の湯(冷水)を入れ、1分程度予熱(予冷)するとより効果的です。
※飲みものの量は図の位置までにする。

飲みものを入れすぎてせんユニットをしめると、飲みものが吹き出したり後からもれ出すことがあります。飲みものを入れすぎた場合は、少量の飲みものを捨ててから、元どおりせんユニットをしめてください。

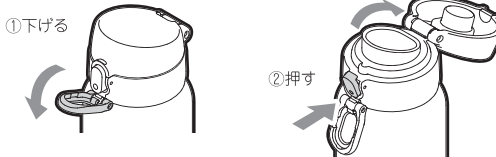
3 せんユニットをしめる

ふたをしめた状態で、せんユニットを矢印の方向にまわしてしめる。



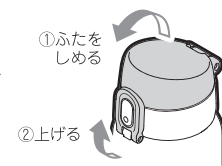
4 ふたをあけて飲みものを飲む

- ①製品を立てた状態で安全ロックを下げる。
- ②プッシュボタンを押してふたをあけ、ゆっくり傾けながら飲みものを飲む。



5 飲み終わったら

- ①飲み終わったら、製品を立てた状態でふたをカチッと音がするまで確実にしめる。
- ②安全ロックを上げて、ロックする。



お手入れ方法

- ◆ご使用後は、必ずその日のうちにお手入れする。
- ◆お手入れをするときは、やわらかいスポンジ以外は使用しない。
- ◆おいを防ぐため、こまめにお手入れをする。

本体外側・せんユニット

本体外側、せんユニットをぬるま湯が水で丸洗いし、すぐに乾いた布で水分をふきとる。※つけ洗いはしない。

本体内側

柄のついたスポンジブラシなどできれいに内面を洗い、十分に乾燥させる。

パッキン

パッキンをせんやふたから取りはずし、ぬるま湯が水で丸洗いし、乾いた布で水分をふき取る。その後「パッキンの取りつけ方」を参考にして、せんやふたに確実に取りつける。(パッキン表面にゴミなど付着していると、もれの原因)

底カバー

底カバーを本体から取りはずし、ぬるま湯が水で丸洗いし、十分に乾燥させてから「底カバーの取りつけ方」を参考にして取りつける。※つけ洗いはしない。

お手入れ上の注意

お手入れ前によくお読みのうえ、必ずお守りください。

- 塩素系漂白剤は使用しない。サビ・穴あきなど故障の原因。
- 本体外側は、漂白剤を使用しない。
- 本体内側に酸素系漂白剤を使用する際は、せんユニットを取りつけない。本体の内圧が上がり、せんユニットが飛び出すなど危険。
- シンナー・ベンジン・金属たわし・たわし・みがき粉・クレンザー・化学ぞうきん・台所用以外の洗剤などは使用しない。傷・サビなど故障の原因。
- 本体・せんユニットの煮沸および食器洗浄機、食器乾燥機などの使用はしない。傷・サビ・変形・もれなど故障の原因。
- 本体は丸洗いできますが、つけ洗い(水中に放置)はしない。
- 本体を丸洗いした後は、必ず水分をふき取る。ふき取らないと、水滴のあとが残ったり、サビや他のものを汚す原因。
- 長時間ご使用にならないときは、よくお手入れをして汚れを落とし、十分乾燥させて高温多湿を避けて保管する。